

新型コロナウイルス感染症に関する アンケート結果報告

菊川市市民協働センター
令和2年5月1日

目次

1. 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート 概要
2. 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート結果 要旨
3. アンケート結果① 地域において困ったこと
4. アンケート結果② 活動において困ったこと
5. アンケート結果③ 気づきや感じたこと
6. アンケート結果④ この状況を乗り切る工夫やアイデア

1. 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート 概要

目的

市民活動団体の声を広く拾うことで、地域の現状や課題を知り、必要に応じて関係各所と共有することを目的とする。

対象

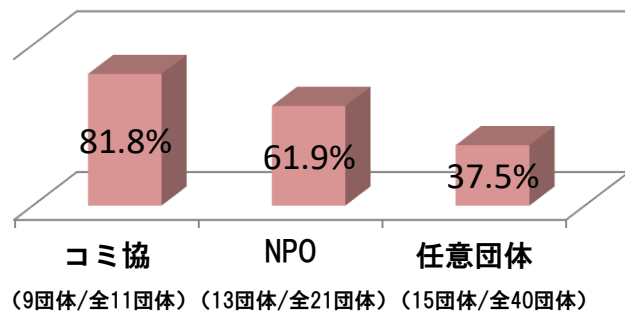
菊川市市民協働センター登録団体 全72団体

回答率

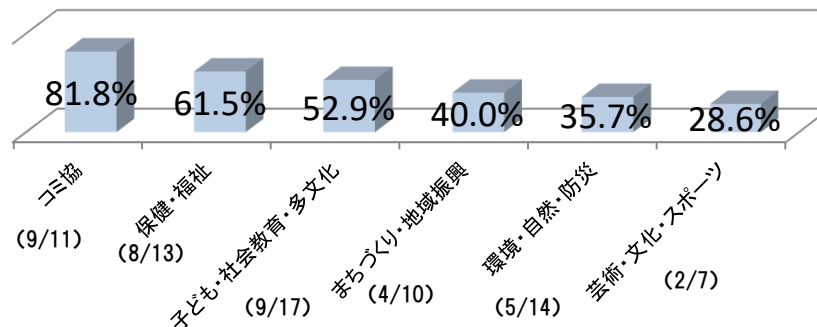
回答数 37団体 / 全72団体

回答率 51.4%

形態別の回答率



活動種類別の回答率



実施方法

期間：令和2年3月11日（水）～ 4月22日（水）

方法：各団体に配付、郵送、メール送信し、記入後に回収。

2. 新型コロナウイルス感染症に関するアンケート結果 要旨

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、市民協働センターでは登録団体に対してアンケートの協力をお願いしました。登録団体の声を広く聞くことで地域の現状や課題を知り、必要に応じて皆さんや関係機関と共有することがその目的です。1カ月ほどの実施期間を通して、計37団体から回答を頂きました（回答率51.4%）。ご協力頂きましたこと、深く御礼申し上げます。

アンケートでは、活動における困りごとや、地域での困りごとを中心に調査しました。活動における困りごとについては、半数近くの18団体から「活動ができない」との声が挙げられ、「会議が開催できない」（15団体）、「計画を立てられない」（13団体）が続きました。また、地域での困りごとに関しては、感染防止用品（マスク、アルコール消毒液等）の不足と、不確かな情報が拡散することに対する懸念が挙げられました。

その一方で、手作りのマスクを作ったり、オンラインを通じて打ち合わせを行ったり、この状況を乗り切ろうと工夫をしている団体もありました。市民協働センターは、困難な時期だからこそ、これらの前向きな取り組みをお伝えしていきたいと考えています。

3. アンケート結果① 地域において困ったこと

質問①：地域で困ったことはありましたか。

【多く挙げた回答】

- マスク、アルコール除菌液等の感染防止用品の不足（8団体）
 - 不確かな情報やうわさに対する懸念（5団体）
 - 精神的な不安（4団体）
 - 学校の休校における子供の心配（4団体）
-

【具体的な回答例】

感染防止用品の不足

- ・ マスクや手指消毒液などの感染防止グッズが店頭では売り切れていて入手が困難となっている。
- ・ 現時点では足りているが、今後コロナ終息の時期によっては物品（アルコール除菌用品、マスク等）が不足する可能性がある。
- ・ 会合を開く場合はマスク着用や消毒と言うが、その物がない。

不確かな情報やうわさ

- ・ 不確かな情報がSNS上で拡散し、それをもとにあることないことが風評になり、過度に心配する住民がいた。

精神的な不安

- ・ 不安が大きくなっており、家から出られなくなっている人がいる。
- ・ 精神的な閉塞感があること。

学校の休校

- ・ 学校が休みになり、特に子どもたちの生活リズムが乱れてしまっていること。
- ・ 子どもたちの保護者から、休校による勉強の遅れが心配、家族以外と話す機会が失われているのが気がかり、生活リズムが崩れている、といった声を聞いている。

4. アンケート結果② 活動において困ったこと

質問②：活動のことで困ったことはありましたか。

【多く挙げた回答】

- 活動ができない（18団体）
- 会議や情報共有ができない（15団体）
- 活動計画が立てられない（13団体）

【具体的な回答例】

活動ができない

- ・活動自体が出来ていない。
- ・活動は集客を行うため、実行できない。
- ・公共施設が使用禁止になったため、活動ができないこと。

会議や情報共有ができない

- ・年度当初の役員会、総会が開催できない。
- ・普段移動困難な人たちが交流し情報交換できる機会が持てなかった。

活動計画が立てられない

- ・先が見通せないことが大きな問題（課題）である。
- ・活動開始の目途が立たず、収支計画を含めて、今年度の計画が立てにくい。

その他

- ・新規参加者の募集ができない。
- ・今月の支払いができない。

5. アンケート結果③ 気づきや感じたこと

質問③：その他、身近な困りごと、気づきや感じたことを教えてください。

【主な回答一覧】

- ・報道、メディアに踊らされている。
- ・このような状況だからこそ、地域医療を支える活動が重要になると思う。
- ・無症状の方も存在するので心配、怖い。
- ・うわさがうわさと呼んで、うわさの基地にならないように気を付ける。
- ・オンラインを活用した活動形態を選択肢として持っている必要があると思う。
- ・行動に制限がかかる中で、何が本当に必要で大切なのかを考える機会になっている。
- ・保育現場や医療現場、福祉現場で除菌液が不足している様子。
- ・安心して病院に行けない。
- ・コロナ対策は徹底できていない。
- ・小規模企業者緊急応援給付金などの事業者向け経済対策では、NPO法人が支援の対象ではない。
- ・花粉症だが、鼻水が出るだけで重病に見られる。
- ・マスク不足に対して、手作りマスクで対応している方を見て、温かい気持ちになった。
- ・「行くところがない」「暇で困る」がエスカレートし、家庭内DVが起こらないことを切に祈っている。
- ・学校が休みで図書館も入れない。本屋さんも学区にないので、家での時間を有意義に過ごすのが難しい。

6. アンケート結果④ この状況を乗り切る工夫やアイデア

質問④：この状況を乗り切る工夫やアイデア、役に立った情報を教えてください。

感染防止用品の不足に対して

- ・ 布製マスクを無料で手作りしてくれているスタッフがいる。
- ・ 手作りマスクで対応している。スタッフに手作りマスクの作り方を配布した。
- ・ 法人で次亜塩酸生成錠剤を入手する。
- ・ 品薄とされている衛生用品等を会で調達し、事業活動の際、景品等の対象とする

コロナに関する正確な情報

- ・ コロナウイルスについての正確な情報を集める。
- ・ 垂れ幕等でのコロナ対策の普及啓蒙活動

会議、情報交換の方法

- ・ グループラインで情報交換等をする。
- ・ オンラインでの講座を検討中。
- ・ 打ち合わせ等でのZOOMの利用。
- ・ 啓発資料の配布や広報関係の媒体を使い、周知していきたい。

その他

- ・ 訪問に体温を計ってもらう。
- ・ 事務内の換気を心掛け、窓をなるべく開けている
- ・ 市民協働基金の実施。
- ・ 高齢者の買い物支援。